

生活

 seikatsu@asahi.com



本番前のけいこ。プロの俳優が見守る中、ヘルパーら介護職が表情豊かに熱演。衣装も小道具も使わない一群馬場高崎市

伝われ 介護の喜び

ヘルパーら、芝居で思い表現

「むかーし昔、ニンジン、大根、ゴボウは泥だらけでした」。介護に直接関係のない物語を、現役のヘルパーたちが、野菜になりきり、踊り、生き生きと演じていた。

プロの俳優が出前で演技・指導

「ありまり」は東京で活動する。「ありまり」は東京で活動す
氣にさせ、生き生きさせ、「私も元気になる仕事を」「一
生懸命生きている姿を間近で見
られる。仕事が誇りです」と介
護への思いや喜びをアピール。
最後は「うん」とこよ、どうし
いしょ」と聴衆も一体となって
「大きなから」を口っこ抜く。
大きなからは高齢社会を象徴
し、介護職をみんなで支えよう
というメッセージが込められて
いる。

「ありまり」と介護を結びつ
けるきっかけを作ったのは、N
PO系の介護事業所などによる
「市民福祉団体全国協議会」事務
理事の田中尚輝さんだ。芝居公
演を見て「介護に携わる人たち
の明るさが伝わってくる。『大き
なから』では力を合わせて助け
合の意味が実感としてわかつ
た」と話す。

前興行」をしてきた。メンバーの中には福祉施設で働く者もいる。「まりまつ」の芝居を見た田中さんの提案で、福島、香川、群馬の各労働局の委託事業として、介護事業所が開くセミナーや就職面接会の企画演出を「まりまつ」が担当した。

福島市ではティサービスの広間に近所の人が観客として集まり、スタッフもボランティアも利用者も出演。高松市では就職面接会の介護事業所の各ブースを芝居形式で紹介し、面接官や求職者も出演するなど、目的や場所に応じて演出も変えた。各地の大学や高校、保育園、商店街など30ヵ所近くで、参加型のお芝居会を開いた。

「介護職に興味を持った」という感想のほか、「これから介護の仕事に就くので不安だったが、勇気と自信をもらった」「自分がめざす職業を誇りに思えた」という学生や、「生きるひと、老いのひとを感じることができる」「介護のイメージが明るくなった」といった感想が多く寄せられている。

びが介護の核心にあることを表現したかった。芝居で空間を共有することで一体感が生まれる」と話す。

介護職の離職率は高く、1年間に18・7%が辞めていく。平均給与は月約21万6千円で、産業平均の66%。「もちろん待遇の改善は必要。でも、まず介護の理解者や応援団を増やしたい。それは働く人の元気にかかる。」(ひだか) 久慈原さんは「お芝居会(約15分)の出前なら3万円から。問い合わせは「ありあり」ホームページへ